

私が放送大学大学院へ入学するきっかけとなったのは、司書教諭の資格を取得するために放送大学の夏季集中講座を受講したことでした。当時は高校で英語の教諭をしておりましたが、定年退職を3年後に控え、退職後は小中学校で司書教諭として働くことを一つの選択肢として考えていました。この講座は予想を超える面白さで、資格取得に必要な5つの科目を興味深く受講しました。受講終了後、他の講座も受講してみたくなり、その年の後期から修士科目生として「海外の教育改革」の受講を始めました。当然のことながら、レポートの提出や学期末に単位認定試験があり大変でしたが、自ら学ぶことの面白さに気づき、自分の新しい可能性を考えるようになりました。その後修士科目生として引き続き「異言語との出会い」「中世ルネッサンス文学」など、人文学プログラムの講座を中心に受講し、2年半で18単位を修得しました。そして退職後は修士課程全科生として放送大学大学院に入学し、修了後は大学で英語を教えてみたいと考えるに至りました。

修士課程に全科生として入学し、お世話になりましたのはゼミの大橋理枝先生です。オンラインで行われるゼミでは大橋先生から鋭い指摘や的確な助言をいただき、新しい気付きを得て、柔軟な思考をすることができるようになりました。また先輩方や仲間と交流する機会をたびたび設けていただき、アドバイスや励ましをもらい、学びの視野が広がりました。特に2年目からはゼミの仲間とメールで情報交換やゼミでの自分の発表のお手伝いをお願い、論文に関する相談などを行えるようになり、本来勉強は独りでやるものと考えがちですが、仲間が支えてくれることのありがたさも実感することができました。

修士論文は、英語のスピーキング活動が英語力全体の伸長へ繋がるのではないか、という高校で実践してきた内容を中心に作成しました。当初高校の授業時に生徒から集めたアンケートを軸として論文を作成する予定でしたが、定期考査の問題と生徒の得点、他教諭との比較の資料などを用いてはどうかと、大橋先生から自分だけでは思いつかないような新しい視点に基づく提案をしていただき、それらを軸にして何とか修士論文の形にたどり着くことができました。

3月にNHKホールで修了式が行われました。普段ゼミでは遠方にお住いの方々とオンライン上で会うことはできていましたが、当日は大橋先生とゼミの仲間に直接会うことができ、感激もひとしおでした。放送大学大学院を修了したことにより、目に見えない大きな自信を持つことができ、大学の英語の授業でスピーキング活動を推進したいという夢の入口に立つことができました。大学院で研究したいが通学が難しい、学ぶ時間帯に制約がある等の事情でお悩みの方も、柔軟な対応が可能な放送大学大学院に入学してみてはいかがでしょうか。